

# 環境マネジメントシステムの推進

環境保全活動のレベルアップを図るための監査や教育強化を推進し  
マネジメント体制の継続的な改善に努めています。



環境監査(書類審査)



環境監査(現場審査)

## 環境マネジメントシステム

ケイミューにおける環境経営の考え方の中心となっているのは「ケイミュー地球環境憲章」であり、それに基づいて「ケイミュー環境方針」を制定しています。全社および各製造事業所ではこの方針を基本に「環境自主行動計画」を定め、環境マネジメントの国際規格であるISO14001に則した継続的な改善に取り組んでいます。さらに3か年の取り組み目標を数値化した「環境推進中期計画」を年度ごとに策定し、その達成度を確認するとともにPDCAの年次レビューを行います。この内容については未達成の部分も含めて開示し、取り組み成果のスパイラルアップに努めています。

## 環境監査の実施

製造事業所を対象に環境事故や災害の未然防止や環境関連法及び条例の遵守を重点に環境監査を実施しています。高度な専門性が求められる「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)」では外部のコンサルタントの協力も得て一定のリスク低減を達成しました。また、本社環境事務局と各製造事業所の環境事務局が各製造事業所を相互監査することで環境関連法遵守状況の確認と管理のレベルアップを図っています。

2017年度は環境監査と廃棄物管理監査を一元化して実効性を高めたほか、各製造事業所における環境関連法、水質汚染関連法、大気汚染防止法、廃掃法についての法的要求事項の遵守とその確認を重点的に実施しました。

## 廃棄物管理監査の取り組み

廃棄物管理監査は「廃棄物適正管理基準」に基づき、適切な管理体制の確立、関連法の遵守、産業廃棄物処分業許可取り消しにつながる行為の未然防止などを目的に実施しています。

各製造事業所を対象とした廃棄物管理監査は環境監査に一元化し、各製造事業所による相互監査にシフトしました。一方、本社の環境事務局では外部コンサルタントによる廃棄物管理監査を受け、法的要求事項の適正解釈確認や行政指導事例などの外部情報を入手することでリスク回避につながる専門性を高める取り組みを展開しています。

2017年度は奈良テクノセンターを対象に遵法性及び管理体制を重点に監査を実施しました。

## 環境監査及び環境関連法の勉強会

2017年度からの環境及び廃棄物管理監査の一元化、各製造事業所間での相互監査の実施を受けて、2017年9月に次のような社内勉強会を実施しました。

1. 監査員を対象に、環境監査での実施要領、実際に使用するチェックシートへの記載についての解説。
2. 各製造事業所の環境事務局を対象に、廃掃法改正省令(2017年10月1日施行)を踏まえて水銀廃棄物の適正処理についての新たな対応、法改正に関する情報の共有化、関係部門への周知徹底。



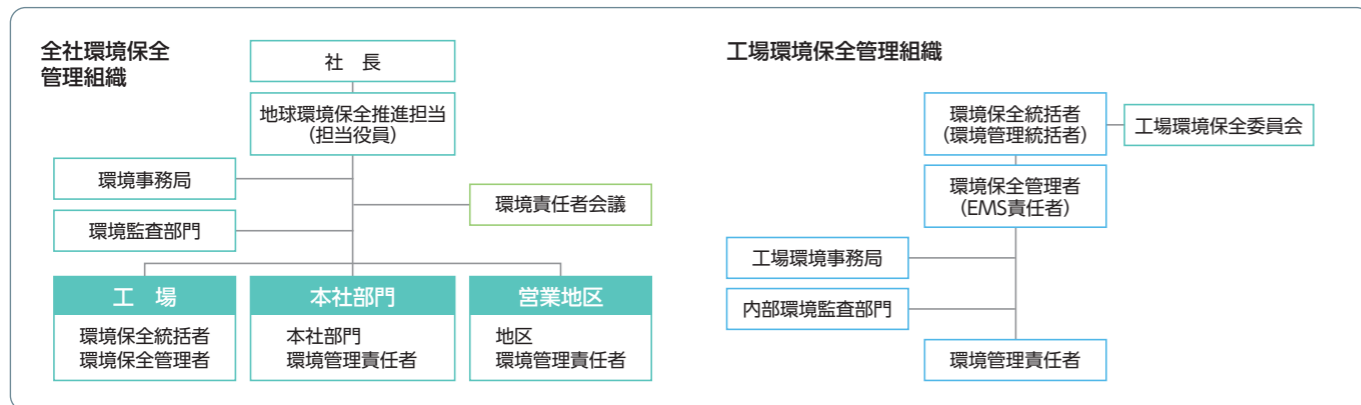
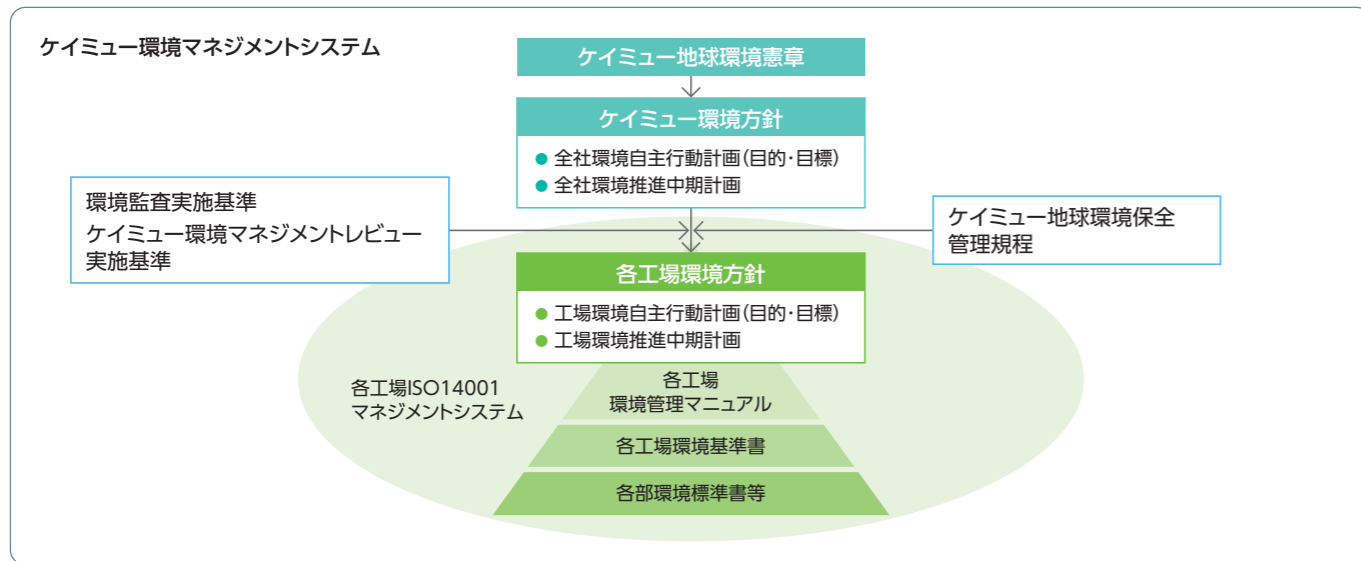
廃棄物管理監査(書類審査)



廃棄物管理監査(現場審査)



環境勉強会



## VOICE 監査できる人材を社内で育成することが今後の課題です。

当社では環境保全を最重要課題のひとつであると認識し、環境関連法を遵守するための社内基準のひとつとして「廃棄物適正管理基準」を制定し運用しており、堺工場も例外ではありません。それを実効性のあるものとするには第三者視点の客観的な評価ができる環境監査の実施が重要であり、工場と本社環境事務局が連携して監査する側と受ける側双方の体制整備が必要で、その一環となるのが相互監査への移行でした。

地球環境保全活動には経営方針と環境改善活動

とがリンクしていることが重要ですが、今回のISO14001の2015年版への更新はそれを踏まえたものと理解しています。これを機に、監査を受ける側が監査する側の意識レベルとなる仕組みを作り上げ、環境マネジメントをできる人材を育成していくことが重要な課題となります。それらによって自らの環境保全活動に関する課題解決力が向上し、ケイミュー全体の環境管理レベルの向上にもつながっていくと考えています。



堺工場 製造グループ 担当課長 真野 一夫

## TOPICS

### ISO14001：2015年版への移行を完了(堺工場/鹿島工場)

ケイミューの製造事業所は環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001(2004年版)の認証を受け、環境保全活動に取り組んできましたが、2004年版が運用面で事業活動に反映するには不足な点があることが見えてきていました。そういった点を解消すべく要求事項の追加も含め、規格全体の構成を見直し、環境保全活動に携わる関係者全体のレベルアップや事業活動に直結したものになることを目指した2015年版が制定されました。

こうした背景を受け、堺工場、鹿島工場では環境保全活動にはISO14001の認証継続は必要であるとし、2015年版への移行承認

を受けるべく、事前準備として社内への周知の徹底、関係部署を対象とした教育の強化にも取り組むなど受審体制を整えました。

2017年1月に堺工場、2月には鹿島工場がISO14001:2015年版への移行に不備はないとして審査機関から移行承認を受けました。



ISO14001 2015年版移行監査現場確認